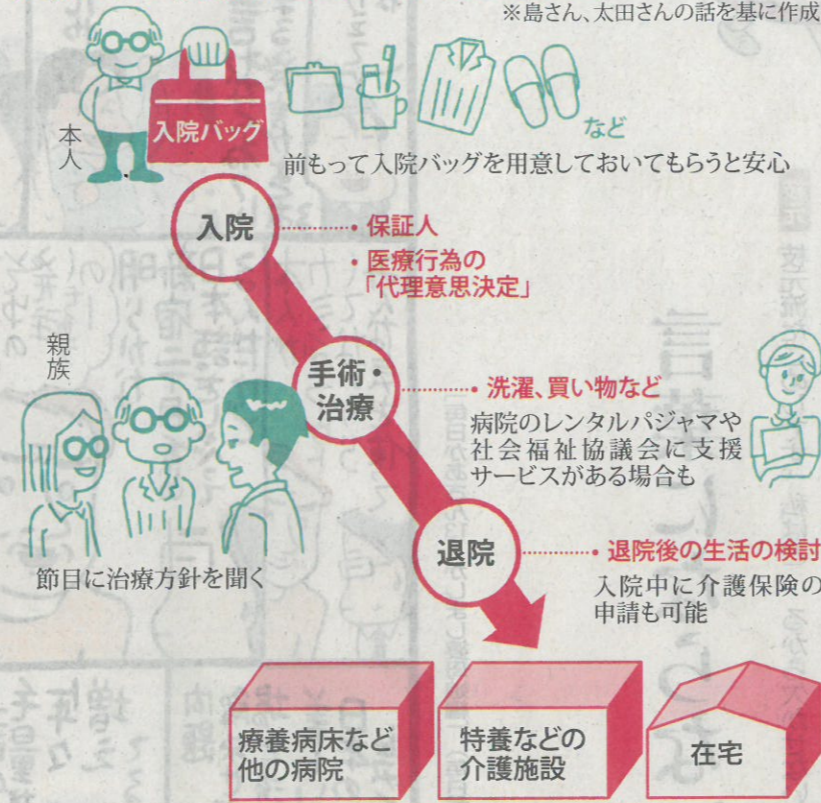


# くらしナビ 生活スタイル

## 入院、どう支えれば？

### 入院時に親族がサポートできること

※島さん、太田さんの話を基に作成



シングルのおじやおば、きょうだいが入院したら、治療費の支払いや入退院のフォローはどうすればいいのだろう。親族は何を求められ、どんな手助けができるのかヒントを探った。

【遠距離家族取材班】

## はなれても いてても

単身親族編

### 後見人制度使い サポート多岐に

「田中芳美さんが入院されています。手帳にあなただけの連絡先がメモしてあったので電話しました」。行政書士の所神根佳子さんの神戸市灘区Ⅱの自宅に、市内の病院のケースワーカーから電話があったのは2013年12月のこと。芳美さん(91)は「仮名Ⅱは亡くなった父親のことで、法事で顔を合わすくらい遠い存在だった。『なぜ私が』。そう思いながら病院に駆けつけたが、『佳子ちゃん、来てくれたの』とうれしそうな顔を見て『できることはしよう』と決めた。

とはいえ、芳美さんについて知っていたのは長年会社員として働き、ずっと独身だったことくらい。「日常の身の回りのことを一番知っているのは介護職の人たち」。所神根さん自身も介護ヘルパーとして10年働いた経験から、芳美さんのヘルパーやケアマネジャーに病状や暮らしぶりを聞き、今後のことを相談した。

幸い病状は心臓が弱っている程度で、お金の管理も自分でできちんとこなしていた。ただ、心配な兆候があった。「時々『モノがなくなつた』と警察に電話をすることがあるんです。認知症の可能性があった。『症状が進んだ時、血縁者であっても勝手に年金口座から現金を引き出すことはできない。成年後見人制度を使うしかないのでは』。

芳美さんの認知症は軽度と診断され、本人の申し立てで所神根さんが「補助人」となることが認められた。それからは、年金口座の出し入れや入退院、ショートステイなどの契約手続きもスムーズに進められるようになった。「ヘルパーの経験と法的知識がなければ、混乱が大きくなっていたかもしれない」と話す。

### 医療ソーシャルワーカーに相談

「肺がんが転移している。もってあと1年です」。兵庫県西宮市のサキさん(63)は「仮名Ⅱは14年夏、高齢シングルのおば(当時83歳)の主治医から、おばの余命を宣告された。おばは70代で乳がんの手術を受けたが、5年以上再発もなく喜んでいた矢先の出来事だった。

おばには余命を伝えないことに決めたが、困ったのがおばの滞在先だ。本人は入院を望んでいなかったが、1人暮らしを続けさせるわけにもいかない。病院の医療ソーシャルワーカーに相談すると、近隣のホスピスを紹介された。

「入所費用の心配はまったくなかった」とサキさん。預貯金や年金額を聞いたことはないが、老後資金をしっかりと準備していることは話しぶりで分かっていた。おばは乳がんの入院・手術後やホスピス入所中、サキさんに「お礼」として数万円を渡してくれた。「交通費もかかっていたので素直に、ありがたかったです」と振り返る。

### 預金管理の口約束 トラブル注意

大阪府立成人病センター(大阪市東成区)の医療ソーシャルワーカー

ワーカー、島沙也華さん(34)は「予定が分かっていて病入で、本人がしっかりしている場合、基本的に1人で入院手続きはできます」という。親族に求められるのは、①入院・治療費の保証人(緊急連絡先にもなる)②本人の意識がなくなった時に本人に代わり医療行為への意思を示す「代理意思決定者」になること。島さんは「拒めば強制されないし、場合によっては友人に依頼する方もいる」と説明する。

入院中は本人の心身も弱っている。可能な範囲でサポートしたい親族には「初診や手術前の治療方針、退院前といった節目に来院し、一緒に医師の説明を聞いてほしい」と話す。余命などシビアな告知を親族が先に受ける可能性もある。普段から延命治療などの考え方について本人の意向を確認しておくのが賢明だ。退院先は主に①療養病床などへの転院②特養などの介護施設③在宅」がある。

最も慌てるのは、突然本人が判断能力をなくした場合の入院費。「元気づうちに貴重品の保管場所を聞いておくのがベスト。聞きにくい場合は親しい人やケアマネジャーなど連絡先を把握しておきましょう」と助言する。

ただ事前に口約束で了解を得ていても、本人の預金からお金を出す時は注意が必要だ。森本哲平弁護士(大阪弁護士会)は「親戚だから勝手に引き出すと後でトラブルになる可能性がある。本人に判断能力がある場合は委任状を書いてもらい、ない場合は後見人を付けた方がいい」と説明する。また所神根さんも「急なことで、あまり親しくないのに勝手に家の中をあさるのは待った方がいい。本人が回復した時にショックを受けることもある」と話す。

### 奥歯の激痛

4月の下旬ごろ。突如、右の下側の奥歯が経験したことのない激痛に襲われました。数日間、様子を見ていたところ、治まるどころか食事を摂るたびに歯のぐらつき感や食事を取ることができないくらい痛みに苦しみました。そのため長年、お世話になったかかりつけの先生の奥様より紹介された診療所で診てもらったことになりました。

### 患者の気持ち

2016.12.5

ろ、奥歯の歯と歯の隙間から何らかの原因ではい菌が入り、歯の根元まで入り込んで痛みを引き起こしていることが分かりました。先生よりすぐに適切な治療を行わないと痛みの箇所がどんどん広がって、激痛のため日常生活にも支障を来すとのご説明がありました。

痛みを引き起こしている箇所が歯の根元とあって、ばい菌を死滅させるケアをする治療に2カ月以上かかりました。その間、先生による適切な丁寧な治療のおかげもありまして日に日に痛みも徐々に治まって安心して食事を取ることも取れます。

東京都立川市

浜野 慶子 無職・55歳

掲載作はニュースサイトに  
も収録します。

### みとりまで 段階別に戦略を

その後も負担が集中し続け、そのうち不満が募る。そうした事態を避けるために高齢シングル本人は、いずれ頼りたい相手にあらかじめお願いしておくと同時に、お礼や財産相続についてきちんと話しておくべきだという。「本人からそうした話が出ないようなら、親族の側は『財産相続はない』という前提で、自分が関われる範囲ややってあげたいことを考えるといい」と太田さんは話す。

お金の問題は他の親族にも波紋をもたらす。ケアに関わることになった人は、入院や介護にまつわる出費について、日付や明細を記録し領収書も取っておくことが重要だ。

遠距離介護を支援するNPO法人パオッコの太田差恵子理事長は著書「親が倒れた！ 親の入院・介護ですぐやること・考えること・お金のこと」(翔泳社)で、短期(入院)▽中期(退院～介護の始まり)▽長期(介護～みとり)——の段階別に戦略を立てるよう整理する。「困った時はプロに相談を」。入院中なら医療ソーシャルワーカー、退院後は地域包括支援センターやケアマネジャーに頼るといい。

その上で太田さんは「高齢シングルと親族の間で焦点となるのは、やはりお金のこと」と指摘する。「何の準備もないまま高齢シングルが倒れると、『なんとかしなきゃ』と最初に行動を起こした親族に